

令和5(2023)年度看護学部 卒業時アンケート調査集計結果

I R 委員会

I R 課

I. 看護学部卒業時アンケート調査の概要

1. 目的

- 1) 学生自身が看護学部における学びを振り返り、看護学部の教育、支援及び自己の成長について評価する。
- 2) 1) の結果に基づき、看護学部の継続的な教育改善に役立てる。

2. 実施

- 1) 対象：東京純心大学看護学部 令和5(2023)年度卒業生 66名
- 2) 時期：令和6(2024)年2月14日
- 3) 配付・回収方法：令和5(2023)年2月14日の看護師国家試験自己採点・連絡の中に配付、回答後回収（欠席者は後日回答）
- 4) 回収状況：53名（回収率80%）

3. 質問項目

- 1) DP（「ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与に関する方針」の習得状況に関する自己評価
- 2) 看護学部の教育（講義・演習・実習）改善の必要性について
- 3) 看護学部の支援について
- 4) 学生の成長について
- 5) 看護学部の教育に対する満足の程度について

II 調査結果

1. DP（ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与に関する方針）の自己評価について

		る ① 身 に つ い て い	つ い て い る ② あ る 程 度 身 に	え な い ③ ど ち ら と も い	い て い な い ④ あ ま り 身 に つ つ い て い	な い ⑤ 身 に つ い て い	
DP1	キリスト教の精神を基調とし、かけがいのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。	人間の尊厳と権利を擁護する力	25 (51%)	22 (45%)	2 (4%)	0 (0%)	0 (0%)
		人間関係形成力	21 (43%)	22 (45%)	5 (10%)	1 (2%)	0 (0%)
DP2	倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。	臨床判断力	10 (20%)	30 (61%)	9 (18%)	0 (0%)	0 (0%)
		科学的看護実践力	12 (24%)	26 (53%)	11 (22%)	0 (0%)	0 (0%)
DP3	多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。	対象ニーズに基づく看護実践力	13 (27%)	27 (55%)	9 (18%)	0 (0%)	0 (0%)
DP4	看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。	看護専門職として自律する力	13 (27%)	27 (55%)	8 (16%)	1 (2%)	0 (0%)
		多職種連携・協働力	17 (35%)	22 (45%)	9 (18%)	1 (2%)	0 (0%)

DP5	看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。	課題発見力	15 (30%)	27 (54%)	8 (16%)	0 (0%)	0 (0%)
		課題解決力	11 (22%)	27 (55%)	11 (22%)	0 (0%)	0 (0%)
		看護創造力	13 (27%)	30 (61%)	6 (12%)	0 (0%)	0 (0%)
		継続的に学ぶ力	16 (33%)	23 (47%)	10 (20%)	0 (0%)	0 (0%)

※ 2020年度入学生のみの回答（2018年度以前入学生はD Pが異なるため）

☞ 「①身についている」、「②ある程度身についている」と回答したものを合わせると、「人間の尊厳と権利を擁護する力」において90%を超える高い習得状況を示している。また、「人間関係形成力」、「臨床判断力」、「対象ニーズに基づく看護実践力」、「看護専門職として自律する力」、「課題発見力」、「看護創造力」において、80%を超える高い習得状況を示している。

D P達成状況

		いる ①身 に つ い て	につ い て い る ②あ る 程 度 身	い え な い ③ど ち ら と も	つ い て い な い ④あ ま り 身 に	い な い ⑤身 に つ い て	
DP1	キリスト教の精神を基調とし、かけがいのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		46 (47%)	44 (45%)	7 (7%)	1 (1%)	0 (0%)
DP2	倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		22 (22%)	56 (57%)	20 (20%)	0 (0%)	0 (0%)
DP3	多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		13 (27%)	27 (55%)	9 (18%)	0 (0%)	0 (0%)
DP4	看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		30 (31%)	49 (50%)	17 (17%)	2 (2%)	0 (0%)
DP5	看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		55 (28%)	107 (54%)	35 (18%)	0 (0%)	0 (0%)

☞ 「①身についている」、「②ある程度身についている」と回答したものを合わせると、「D P 1」が92%、「D P 2」が79%、「D P 3」が82%、「D P 4」が81%、「D P 5」が82%と、いずれも高い。

【参考】ディプロマ・ポリシー達成状況（自己評価）とディプロマ・ポリシーに関わる学修評価

		自己評価 Lv. 0-4	学修評価 Lv. 1-4
DP1	キリスト教の精神を基調とし、かけがいのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。	3.38	2.82
DP2	倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。	3.02	2.27
DP3	多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。	3.08	2.61
DP4	看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。	3.09	2.71
DP5	看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。	3.10	2.45

*自己評価は「①身についている」を4点、「②ある程度身についている」を3点、「③どちらともいえない」を2点、「④あまり身についていない」を1点、「⑤身についていない」を0点として換算
学修評価は、各ディプロマ・ポリシーを達成する必修科目の評価G Pの平均

2. 看護学部の教育（講義・演習・実習）改善の必要性について

		①改善の必要がある	②改善の必要はない	③どちらともいえない
1)	4年間の講義について	14(27%)	16(31%)	21(41%)
2)	4年間の演習について	21(40%)	19(36%)	13(25%)
3)	4年間の実習について	22(42%)	16(30%)	15(28%)

☞看護学部の教育に関する改善の必要性について、「①改善の必要がある」と回答した割合は「実習」が最も高く42%、続いて「演習」が40%、「講義」が27%となっている。

3. 看護学部の支援

		①とても充実していた	②充実していた	③どちらともいえない	④あまり充実していないかった	⑤充実していなかった
(1)	アドバイザーによるサポート・相談について	13 (25%)	24 (45%)	13 (25%)	1 (2%)	2 (4%)
(2)	進路・就職に対するサポート・相談について	22 (42%)	21 (40%)	10 (19%)	0 (0%)	0 (0%)
(3)	国家試験対策に対する支援について	10 (19%)	21 (40%)	17 (32%)	4 (8%)	1 (2%)

☞「①とても充実していた」、「②充実していた」と回答したものを作ると、「(1) アドバイザーによるサポート・相談」が70%、「(2) 進路・就職に対するサポート・相談」が82%、「国家試験対策に対する支援」が59%となっている。

4. 本学での学びや体験を通して、入学時と比べた成長の程度

	①とても成長した	②成長した	③どちらともいえない	④あまり成長しなかった	⑤成長しなかった
本学での学びや体験を通して、入学時と比べてどの程度成長したか。	18 (34%)	25 (47%)	10 (19%)	0 (0%)	0 (0%)

☞「①とても成長した」、「②成長した」と回答したものを作ると81%と高い割合になっている。

5. 看護学部の教育に対する満足の程度

	①とても満足している	②満足している	③どちらともいえない	④あまり満足していない	⑤満足していない
看護学部の教育に満足しているか。	8 (15%)	22 (42%)	18 (34%)	3 (6%)	2 (4%)

☞「①とても満足している」、「②満足している」と回答したものを作ると57%となっている。